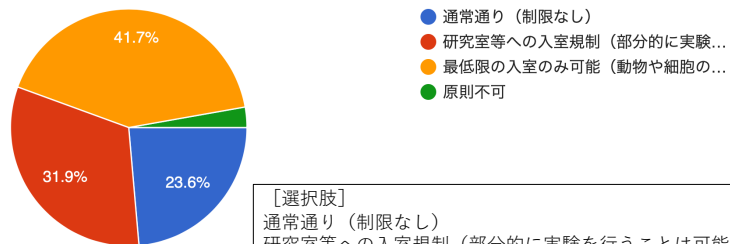


緊急事態宣言による会員の研究・教育活動への影響調査

日本放射線影響学会
実施日: 2020年5月11日～18日
回答数: 72件 (正会員)

1

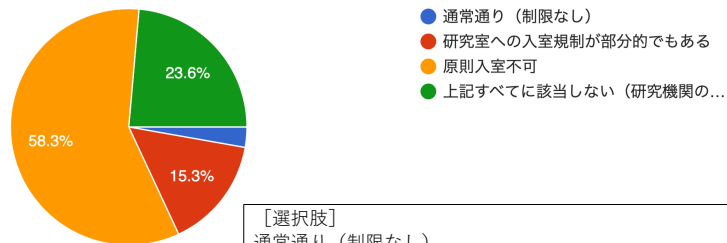
〔研究活動〕 所属機関から公式に求められている活動制限内容について、下記から一つお選び下さい。



〔選択肢〕
通常通り (制限なし)
研究室等への入室規制 (部分的に実験を行うことは可能)
最低限の入室のみ可能 (動物や細胞の維持等)
原則不可

2

〔所属学生の研究室での活動〕 所属機関から公式に求められている所属学生に対する活動制限について、下記から一つお選び下さい。



〔選択肢〕

通常通り（制限なし）
 研究室への入室規制が部分的でもある
 原則入室不可
 上記すべてに該当しない（研究機関のため正規所属学生に対する規制方針がない、等）

3

研究室への入室規制がある場合に、研究室内の研究活動の維持のために行っていることあれば記載下さい

主な回答

ラボミーティング・会議等のウェブシステム利用 21人

Eメール等のメッセージのみでのやりとり 7人

その他の回答

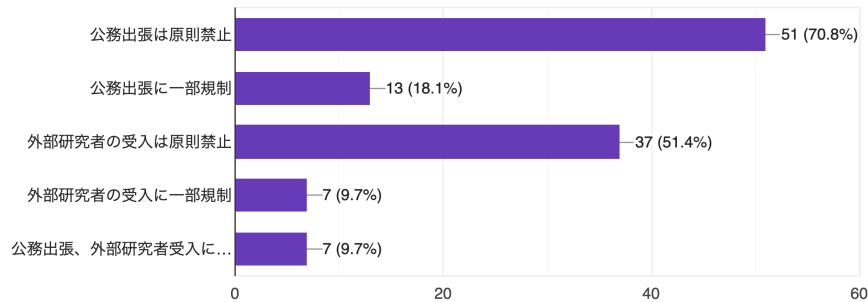
Google meet使用

リモートアクセスでの論文執筆

オンラインでのデータベース解析

4

〔公務出張・外部研究者の訪問受け入れ〕研究打合せ・学会参加・他の公務での国内出張、また国内外部研究者の訪問受け入れについて、所属機関に公式な規制がある場合、該当する項目にチェック下さい。

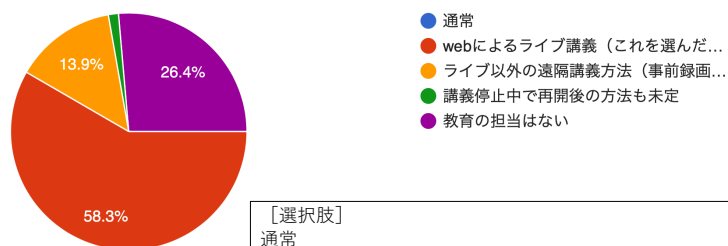


〔選択肢〕

公務出張は原則禁止
 公務出張に一部規制
 外部研究者の受入は原則禁止
 外部研究者の受入に一部規制
 公務出張、外部研究者受入について公式な規制はない

5

〔教育活動（講義）〕大学あるいは学部・学科等から公式に示されている教育に関する制限・講義方法について回答下さい（研究機関所属でも正規に非常勤講師等で大学の講義担当している方も回答ください。なお、現在は講義停止中の場合でも大型連休明けに再開し、講義方法が決まっている場合はその方法で回答ください）

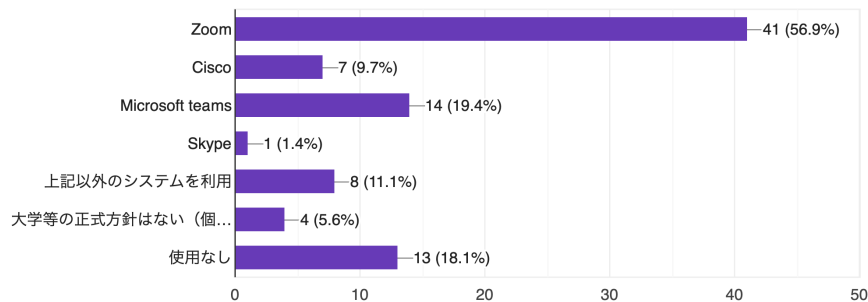


〔選択肢〕

通常
 webによるライブ講義
 ライブ以外の遠隔講義方法（事前録画した動画の視聴やpdfファイルなど講義資料のみの配付等）
 講義停止中で再開後の方法も未定
 教育の担当はない

6

〔Webによるライブ講義〕 大学・学部等の方針（契約）に基づいて講義に使用されている会議システムについて回答下さい。会議システムを使用されていない方は「使用なし」をチェック下さい。

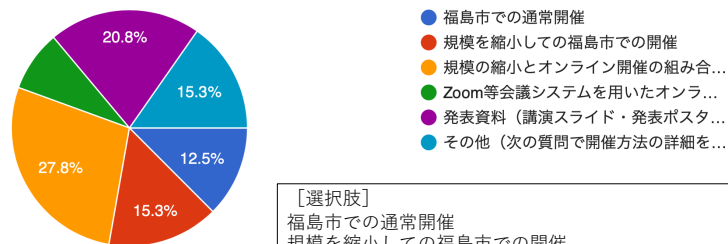


〔選択肢〕

Zoom
Cisco
Microsoft teams
Skype
上記以外のシステムを利用
大学等の正式方針はない（個人でシステム選択をして使用）
使用なし

7

本年度第63回大会の開催方法について、最も好ましいと思われる開催方法を一つ選択ください。



〔選択肢〕

福島市での通常開催
規模を縮小しての福島市での開催
規模の縮小とオンライン開催の組み合わせ（時期を分離した開催も含めて）
Zoom等会議システムを用いたオンライン開催のみ
発表資料（講演スライド・発表ポスター概要等）をpdf化して大会HP等に掲載し、閲覧できるようにする
その他

8

【質問】 学会から会員へのサポートや会員間の相互協力について、要望・意見等ありましたら、自由に記載下さい。

- ・「ピンチをチャンスに変える」ことを念頭に、コロナ禍の放射線影響研究全般への影響を分析し、必要な対策を講じる。たとえば放射線影響研究においても、コロナ禍に関連する研究テーマを開拓することが生存の道になる可能性があると思われます。
- ・新型コロナウイルス対策は長期化が予測されるので、オンラインでの勉強会や会議を多く開催してJRRSとしてノウハウの蓄積に努めてはどうかと思います。オンライン会議は質で劣りますが試行錯誤によって改善を図れば、国外の研究者とのミーティングや意見交換にも役立つと思います。
- ・会員から個別に要求・提案があれば、真摯に対応頂きたい。
- ・SNSを使った情報発信やオンラインでの教育セミナー開催などを実施すべきと思います。
- ・おそらく教育活動が多い研究者はオンライン授業の準備で忙しいかと思いますが、一方、研究センターの研究者は、実験が進まず、研究成果が出ないことによる数年後の研究費獲得の低下を心配していると思います。後者に関しては、JRRへの招待執筆(総説)の機会を増やすなどしてもよいかもしれません。例えば、メーリングリストに「学会員のいずれかの推薦があればJRRへ総説投稿OK」など。若手が書くことによるある程度のレベルの低下はあるかもしれませんが、若手の勉強の機会になるかもしれません。

(次スライドへ)

9

【質問】 学会から会員へのサポートや会員間の相互協力について、要望・意見等ありましたら、自由に記載下さい

(前スライドの続き)

- ・研究ができなくて困っている会員がいれば、お互いに助け合いやサポートができるようなシステムの構築をしていただけると大変助かります。
- ・各種グラントの今年度予算基金化や研究期間の延長など、実質的な研究休止期間における諸問題解決について関係各所に働きかける。必要に応じて、他学会と連携して対応する。
- ・フィールド調査の協力
- ・学術大会が開催されない場合には、学生の業績を作るという目的で、abstractを査読付きのプロシーディングにする。
- ・今回のための相互協力の枠を超え、この際に、学会員間の共同研究が積極的に推進されるようなマッチングプラットフォームが構築されることを望みます。

10